

井草準一(いぐさ・じゅんいち)氏(ジョンホプキンス大学教授名誉教授)が11月25日、脳出血のため逝去された。享年89歳。専門は代数幾何学。

著書に『Theta functions』(Springer)などがある。

小誌では、「日本の数学・アメリカの文化」(1999年1月号)をご執筆いただいた。

長尾健太郎(ながお・けんたろう)氏(名古屋大学)が2013年10月22日に逝去された。享年31歳。専門は代数幾何学、表現論。

専門の研究のほかに、数学オリンピックで活躍したことで知られ、小誌では、「国際数学オリンピックの問題にチャレンジ/第45回ギリシア大会より」(2004年11月号)をご執筆いただいた。

服部晶夫(はっとり・あきお)氏(東京大学名誉教授)が8月25日、顎下腺がんのため逝去された。享年84歳。専門は位相幾何学。

著書に『位相幾何学』、『多様体のトポロジー』(岩波書店)などがある。

小誌では、特集「小林昭七」(2013年2月号)などでご登場いただいた。

アンドレイ・ゼレヴィンスキー(Andrei Zelevinsky)氏(ノースイースタン大学教授)が4月10日に逝去された。享年60歳。専門は表現論、代数幾何学、組合せ論など多岐にわたる。

S.フォーミンとともにクラスター代数を発見したことなどで知られている。

著書に、『Discriminants, Resultants, and Multidimensional Determinants』(I.M. ゲルファント, M.M.カプラノフとの共著, Birkhauser)などがある。

ケネス・アップル(Kenneth I. Appel)氏(ニューハンプシャー大学名誉教授)が4月19日に食道がんにより逝去された。享年80歳。専門はグラフ理論、組合せ論、トポロジー。

1976年に当時イリノイ大学の同僚であったW.ハーケンとともに、電子計算機を用いて四色定理を証明。1979年にファールカーソン賞を授賞している。

清宮俊雄(せいみや・としお)氏(東京学芸大学名誉教授)が4月29日に脳出血により逝去された。享年103歳。専門は初等幾何学。

著書に、『幾何学——発見的な研究法』(科学新興新社), 『初等幾何学』(裳華房), 『初等幾何のたのしみ』(日本評論社)などがある。

小誌では、連載「幾何の発見的な研究」「初等幾何セミナー」をはじめ、永きにわたり「エレガントな解答をもとむ」にて問題を出題いただいた。

高橋康(たかはし・やすし)氏(アルバータ大学名誉教授)が、2月12日に逝去された。享年89歳。専門は量子力学。

坂田昌一氏の弟子の一人で、場の量子論における「ワード-高橋恒等式」を導いたことで知られる。

著書に、『物性研究者のための場の量子論(1)(2)』(培風館), 『古典場から量子場への道』(講談社), 『脱線好きな人のための理論物理のはなし』(日本評論社)など多数

ある。

小誌では、連載「理論物理学ぞっくばらん」(2005年10月号～2006年1月号)などをご執筆いただいた。

ウォルター・L・ベイリー・ジュニア(Walter L. Baily, Jr.)氏(シカゴ大学名誉教授)が1月15日に逝去された。享年82歳。専門は、代数幾何学・保型形式論。

小平邦彦氏に師事し、「ベイリー-ボレルのコンパクト化」の仕事で知られている。また、日本人研究者とも繋がりが深い。

著書に、『Introductory Lectures on Automorphic Forms – 保型形式論講義』(岩波書店)があるほか、『小平邦彦欧文論文集(Collected Works)』(岩波書店, プリンストン大学出版)の序文を務めた。

小誌では、「小平先生の思い出/Personal Reminiscences Professor Kodaira」(1997年12月号, 特集・小平邦彦)をご執筆いただいた。